

第37回日本てんかん外科学会開催報告

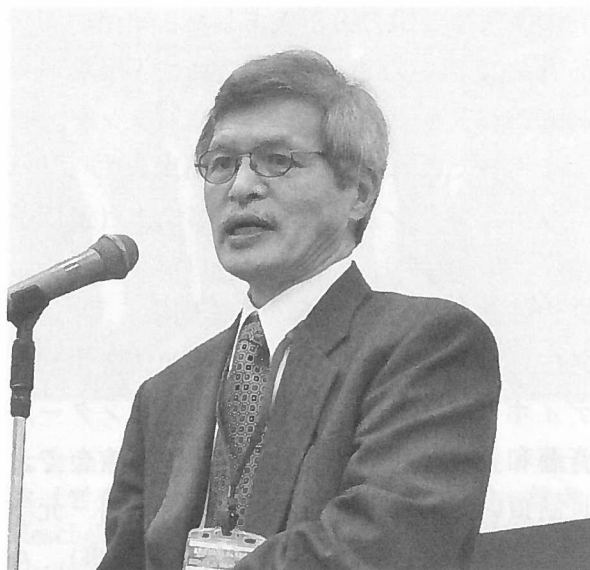
鹿児島大学医歯薬学総合研究科脳神経外科学

第37回てんかん外科学会事務局長 花谷亮典

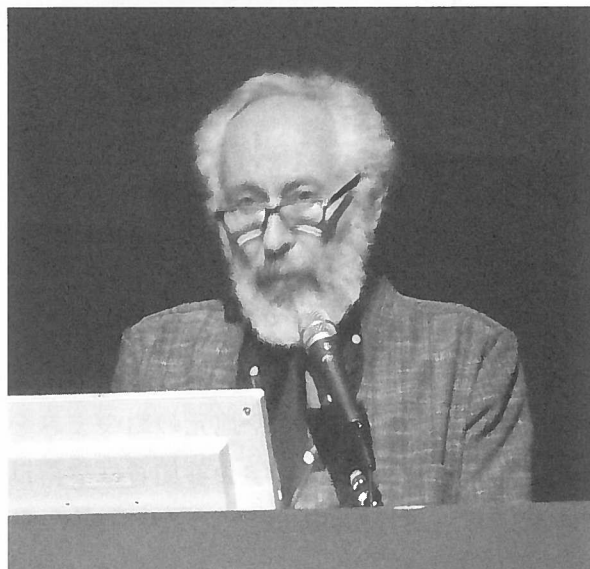
2014年2月6日と7日にわたり、第37回日本てんかん外科学会が開催され、当教室の有田和徳教授が会長を務められました。近年は脳機能疾患関連の日本定位・脳機能神経外科学会と合同で、それぞれ1日半ずつの会期をとり、2日目に合同研修セミナーを設ける形で計3日にわたって行われています。通例として定位脳機能学会の主催施設の所在地で開催されるため、今回は定位脳機能学会を主催される近畿大学の地元、大阪国際会議場が会場となりました。

鹿児島大学脳神経外科は以前からてんかんの外科治療に積極的に取り組んでおり、1990年には故朝倉哲彦名誉教授が、1995年には同門の三原忠紘先生（前静岡てんかん・神経医療センター診療部長）が、それぞれてんかん外科学会の前身であるペンフィールド記念懇話会の会長を担当されました。その後20年ほどの間に、てんかん外科の進歩とてんかん治療の環境改善に伴い、第2世代の抗てんかん薬や発作型を問わずに有効である迷走神経刺激術が認可されるなど、てんかん治療における選択肢が広がって参りました。そこで、有田教授は「多選択肢時代のてんかん外科」をテーマとして掲げ、治療選択肢が増えた状況の中で、てんかんの外科治療のあるべき姿について議論を深めることを目指されました。

このテーマに沿って、「手術適応とタイミング」、「小児に対するてんかん外科の長期効果」、「てんかんコントロールにおける遮断・緩和手術の役割」、「新皮質てんかんの焦



有田和徳会長



Dr. Jean Gotman

点検索 -the latest-」という4つのシンポジウムをはじめとする多くのセッションが設けられました。さらに海外からは Patric Kwan 先生（The University of Melbourne）、Jean

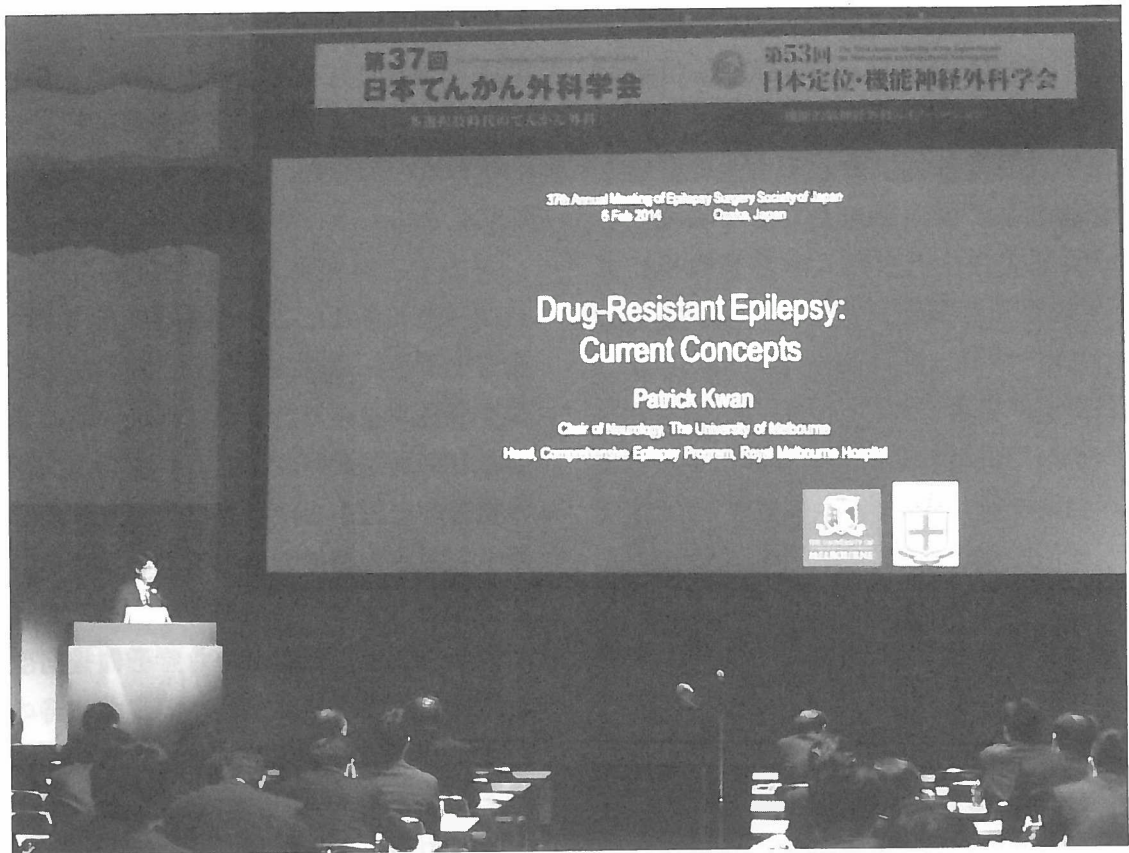
Gotman 先生 (McGill University), 浅野 英司 先生 (Children's Hospital of Michigan) をお招き致し, それぞれ, 神経内科, 臨床神経生理学, 小児領域における, 大変豊富な経験をもとにご講演をいただきました。さらに, 笹征史先生 (広島大学名誉教授) には, 「てんかんと創薬」と題した薬物治療のこれからのための特別講演をいただきました。各講演や発表について活発な討論が行われ, 今回の目的は十分に達せられたと感じました。会期を通して210名の参加者, 100演題と, 天候の悪化が予想された中にもかかわらず, 大変な盛会のうちに終了することができました。また, 鹿児島大学脳神経外科と関連施設からのシンポジウム2題と一般演題4題の発表は, いずれも高い評価と関心をいただくことができました。一方で, てんかんに対する関心の高まりとともに演題数が急速に増加しており, 会期の不足が感じられるようになっていきます。てんかん学会では会期の延長が予定されており, てんかん外科においても今後の課題と思われまます。

強い寒波の襲来が懸念されましたが, てんかん外科学会の会期中は何とか天候も持ち, 両学会で行う合同教育セミナー含めて, 無事に会を終えることができました。降雪の影響で街に繰り出す方が少なかったためか, 2日目の夜に行われた合同懇親会は, 例年以上の参加者で遅くまで賑わいました。早々に食事がなくなることが予想され, とにかくアルコール投入と言う, 両学会事務局とホテル担当者驚愕の事態となりましたものの, 幸い和やかな雰囲気の中締めを終えることができました。運営スタッフとして大阪に出向いた遠征隊, 鹿児島で診療を続けていただいた守備隊と教室員の役割は別れましたが, それぞれ大変お疲れ様でした。また, 本会の開催に当

たっては, 鹿児島大学脳神経外科同門会と関連施設の先生方からたくさんのご支援をいただきました。準備にあたる事務局として大変心強いものでした。この場をお借りして, 厚く御礼を申し上げます。

ちょうど鹿児島大学病院にてんかんセンターが開設されたこともあり, 会期中には同様なセンター開設を計画している施設から様々な質問をいただきました。いち早くてんかんセンターの開設に至った鹿児島大学病院の動向は全国から注目されており, たくさん先生方から期待の声や激励の言葉をいただきました。

学会から少し時間がたち, その後何度か大阪国際会議場を訪れましたが, あの時の様な独特の緊張感を持つこともなく, 何とはなくのホーム感覚を楽しんでいます。2017年には, 有田教授が第17回日本術中画像情報学会, 第40回日本脳神経 CI 学会, 第22回日本脳腫瘍の外科学会を鹿児島で主催されます。これに向けて教室員も少しずつ準備を始めているところです。医師会の先生方におかれましては, 引き続きご指導をお願い申し上げます。



Dr Patric Kwan による講演



大会事務局

鹿児島大学
医学部医師会報



2015/12月 第35号
鹿児島大学医学部医師会